

平成 24 年度第 2 回長野市文化芸術振興審議会 要旨

- 【開催日時】 平成 25 年 3 月 13 日(水) 午前 10 時から午前 11 時 50 分まで
- 【開催場所】 生涯学習センター4階 大学習室1
- 【出席委員】 中山裕一郎委員、宮澤博委員、海沼和幸委員、金澤茂委員、小林玲子委員、土本俊和委員、山岸恵子委員、柳沢征人委員
- 【事務局】 堀内教育長、三井教育次長、松本生涯学習課長、山口文化財課長、林部生涯学習課文化芸術推進室長、関口生涯学習課長補佐、柳澤生涯学習課係長、西沢生涯学習課主査
- 【議事】 (1)(仮称)長野市民文化芸術会館運営管理実施計画(案)について
資料に基づき、実施計画概要版に沿って説明。
(2)その他
事務局より説明。

主な内容(質問・意見及び回答)

(1)(仮称)長野市民文化芸術会館運営管理実施計画(案)について

- | | |
|-----|---|
| 委員 | ・ 4 つのステージと 20 年の設定について、なぜ 20 年としたのか。もう少し短くても良いのでは？20 年は長期との感じを受ける。 |
| 事務局 | ・ 文化芸術を育むには長い時間が掛かる。単年度ごとの事業計画を考えると共に、中長期的な計画も必要である。本計画は、20 年と言わず、もっと先の 100 年後を見据える意識を持ち、長期的な視点で検討したものである。ただし、100 年の計画を示しても責任ある計画にはならないことから、5 年、10 年、20 年とした中長期の目標を掲げ、具体的な事業に取り組み、それらに対する事業評価を踏まえ、社会的文化、または都市としての成熟度を見据えながら、時系変更をして行くこととして、5 年区切りの 20 年先の計画としている。 |
| 委員 | ・ 長野市は総合計画に基づき事業を進めているが、文化芸術一つだけで計画を立てるのではなく、他の産業、経済、観光など、すべてを含めて計画が立てられるべき。20 年の計画が具体的に立てられていることに対し、文化芸術だけが 20 年計画で方向性が決まっていることに違和感を覚える。 |

委員	・ 長野らしさについての話があったが、20 年の計画を見て、長野の文化芸術がどうなっていくのか具体的にイメージできにくい状態であると思えるが、20 年の計画は表に出して、計画のとおり進めて行くものなのか。 ・ 個人的な思いであるが、長野市の文化芸術が見えにくいと感じる。市民にとっても何が長野市らしいのか見えない中で、20 年先の計画を立てるのであれば、今 0 歳の子どもが 20 歳になったときに、どのような長野市になっているのか、夢を持てるような内容が示されれば、市民もそれを共有できると思う。市民文化芸術会館ができるにあたって、市民が夢を抱けるような大きなものを、市民で共有できればと考える。計画案を見たが、市民が共有できる夢のようなものはあまり感じられない。
事務局	・ 文化芸術振興計画は総合計画に連動して、期間設定されている。総合計画は平成 28 年度に 10 年間の計画が終了するが、実施計画本編 6 ページに示すとおり、将来的に長野市を背負うのは、現在の若い世代であり、今後生まれてくる子どもたちである。今の若い世代が大人となったときに、その世代に対して夢のある都市でありたいと考え、中長期的な計画を示す必要があると判断し、総合計画を踏まえた上で、その先を見据えた計画としている。本計画は、会館の運営管理実施計画であり、直接的に総合計画に連動する個別計画とはイコールでなく、設定期間も異なるが、総合計画を踏まえるとした理念をもとに計画したものである。 ・ 計画策定に当たり、総合計画のほか、文化芸術及びスポーツの振興の条例があり、こちらの条例も踏まえている。
委員	・ 基本方針の役割が 4 つ示されているが、例えば、「楽しむ」の中に、「国内外の良質な舞台芸術～」とあるが、全体的に国際性の概念が非常に弱く、他の委員から意見のあった「市民の夢」にならない。スポーツとの関連性から述べると、10 年を経過したが、長野オリンピックといった非常に国際性の高いイベントを受け継ぎながら今日がある。伝統芸術、地域の絆という柱も非常に重要ではあるが、長野の土地にあって、世界に開かれた感じで、外国の芸術家を招聘し、大きなコンサートを企画されるとおもうが、そのこと

委員	が、市民にも、長野市でコンサートが開催されることを強く印象付けるので、第 1 ステージの機会拡大においても重要であり、名の知れたコンサートホールとなり、東京からも、他の地域からも来ていただく上でも、そのような柱を第 1 ステージに掲げて行くのが良いと考える。
事務局	・ 計画は、人間の 20 歳になるまでの成長を意識したものでもある。第 1 ステージは基礎・土台作り、第 2 ステージは成長・発展、第 3 ステージは安定・定着、第 4 ステージは飛躍といったイメージを持っている。20 年とした計画は、中長期的な長野市の志を表現した表記となっている。
委員	・ 計画期間が 20 年であることなど、各ステージを設けることなどは止むを得ないが、第 4 ステージに示す「地域との絆」など、各ステージには初めから重要なことも示されており、20 年あるとして先送りにしてしまい、他人事とすることの無いよう対応してほしい。 ・ 普及事業の中に「楽器クリニック」とあるが、具体的にどのようなものか。また、どのホール、場所で実施するのか。
事務局	・ 楽器の演奏技術を向上させることもあるが、演奏中にどのような役割を果たすのかといったことを学ぶための場である。実施場所については、ホールに限らず、練習室、リハーサル室など、様々な場所が想定される。
委員	・ 「楽器クリニック」にいては、演奏会後の会場でも実施可能である。プロの演奏者による直接指導も可能である。 ・ 70 本の自主事業を行うと計画しているが、どのような内容を、どのような比率、配分で行うか決まっているのか。
事務局	・ 実施計画本編に、想定される事業例を掲載している。新会館では、大ホールは音楽を主目的としている。2 つの小ホールは、1 つは生の音の響きを重視したホール、もう 1 つは演劇主体のホールとなっており、自主事業の主体は音楽系となってくる。

事務局	・ ホールの利用は音楽系の利用が多く、文化芸術活動を行う団体の数も音楽に係わるものが多い状況である。70 本については市として示しているが、ジャンルについても様々であり、どのジャンルを何本実施するかについては、財団で検討することになる。
委員	・ 自主事業については、7 ページの運営体制にある、館長、副館長、名誉館長、芸術監督がキーポイントになると思う。館の運営・方向性を決めるときに、どういうものをどういうバランスで配置するか、館長、副館長、名誉館長、芸術監督のポリシーによるのではないか。たくさんの予算がついても、運営によっては非効率的で、内容が伴わないなど、他の例を耳にする。芸術分野だけでなく、総合的な考え方を持つ館長、芸術監督こそ、意味があるポジションであり、その方の考え方によって事業の内容が左右されると思う。その方々が、館の運命を握っていると言える。 ・ 芸術監督等に対する市の考えを聞きたい。
事務局	・ 館長、名誉館長、芸術監督等が館の運営に大きく影響することは、市も念頭に置いている。自主事業 70 本については、財団に対する要求水準とする考えであるが、企画自体は、財団が行うものとする。そうした中で、館長、芸術監督、名誉館長の位置づけは、非常に重要と認識している。これらの人選を早期に行い、考えをすり合わせして、事業の企画をして行く予定である。
委員	・ 東京藝術大学との協力が示されていたが、運営組織に対する関係はどのような考えか。
事務局	・ 7 ページに示す運営体制等検討委員会を設け、主要な人選を行うことになるが、来年度早々の 4 月には立ち上げ、人選に入りたいと考えている。
委員	・ 松本の場合は、ピンポイントで人を特定して直接頼み行くなど、開館前から早く動く必要があるとして、大物を捕まえることが館の存亡に係わるとしていたと聞いている。上田の施設にも係わる中で、同様の話を聞いている。7 ページの委員会を立ち上げてのやり方では、モタモタしてしまい、民主的に決めてみたものの、上手

委員

くいかないことも考えられる。

- ・ 周辺の他の施設では、軽井沢にでき、その前に松本にでき、今上田にも作っている。そして長野にできるとなれば、競争も激しいと予想される。この辺は勝負どころであるとの感じを受ける。
- ・ この会議で審議された内容は、計画に反映されるのか。前回提案された内容に比べ、内容がだいぶ修正されているが、意見が反映された結果と受け止めてよいのか。
- ・ 新会館を楽しみにしている方もいると思うが、専門的な人や、係わる人だけの楽しみではいけないと思う。長野市全体で考えるべきである。以前、駐車場や案内の話もあったが、例えば、長野駅から新会館まで行く間にこんなに楽しい街づくりがされているなど、途中で季節を感じながら街路樹を見たり、ギャラリーがあったり、それらを通して、新会館に向かうのに市民が楽しく思える、ワクワク思える、街全体を考えた施設でなければならない。歩きたくなる街を考えて新会館が建設されることで、市民が文化芸術の振興に関っていくことができると思う。
- ・ 街の導線を考え、繋がって、その中に新会館が位置づけられるべき。
- ・ 飲食・レストランについて、周りに店など何も無ければ、パンなどを買ってきてロビーで食べるような状況であり、日本では、一般的にコンサートは早い時間に始まり、終わって出てくると店がみんな閉まっていて、みんなで印象を語り合う場が無いこともある。新会館には、そのようにならないように、館だけでなく、館を取り巻く環境を整備することも考えてほしい。

事務局

- ・ 導線については、野外彫刻を大通り沿いに設置している。昨年度は2作品4体、今年度は3体設置して、続けて賑わいが生まれるように考えている。
- ・ 新会館は庁舎との合築でもあり、共有スペースには、市民交流スペース、外には広場を設け、市民に使いやすい配慮をしている。

事務局	既存の事業で、長野駅コンコースとトイーゴ広場で開催したオープンマイク街角コンサートなど、広場等で開催することも考えている。 ・ 市民会館に行けば、何か楽しい賑わいがあるといったイメージも大事だと認識している。
委員	・ 中長期計画における具体的取り組みの中で、第 3 ステージ、第 4 ステージで初めて、オリジナル事業の展開、長野らしいオリジナリティ溢れる事業とあるが、上田にも施設ができる中で、最初にこういった長野らしさを出すことが良いのではないか。オリジナリティについて考えがあればお聞きしたい。
事務局	・ 先進ホールと言われる水戸芸術館にしても、松本にしても、認知されるまで 10 年、20 年掛かるのも事実である。現段階で、長野のオリジナリティが何か示せるものがあれば良いが、行政からは今まで何も示していない、また、市民のイメージもそれぞれ色々なイメージがあり、長野らしさ・オリジナリティは形成されていない状況である。早急にではなく、少しずつ色々なものを出し合っていく中で、多くの指示を得ながら形成すべきと考えている。最終的には築き上げるまである程度時間が掛かるとの認識であるが、計画期間の早い段階で形成できれば良いとは思っている。
委員	・ オリジナル事業は、最初から取り組むべきで。10 年 20 年掛かっていては時間が掛かりすぎる。 ・ 時間が掛かることは理解するが、取り組む時期を項目で分けるのは別の問題と思う。 ・ 教育とか、育むに関しては、鑑賞教室など通じて、0 歳の子どもが 20 歳になって会館に戻ってくることを考えれば、時間が掛かるものは地道に提供し続ければよいが、今やらなければならないもの、良いと思うものは早く出したほうが良い。長期計画でも、オリジナリティを早く出すことも、市民の賛同を得るよりも、館の独自性を早めに出して、結果を見ながら修正すべきは修正し、良いものは早く出して研究したほうが良い。教育・育むは相当時間が掛

委員	かるので、これらは分けたほうが良い、
事務局	・ 本編 26 ページに、主軸としたい事業例を例示しており、自主事業の中で取り組んで参りたい。芸術監督、名誉館長等に委ねる部分も大きいと理解している。例示に縛られることはないので、芸術監督、名誉館長の力を借りながら進めたい。
委員	・ 例示を見ても解るとおり、また、ホールがクラシック音楽に適したものであることを考えても、音楽が割合と比重を占めていることを考えると、色々なことをやるというよりも、新しくできる市民ホールは音楽で行くと、回りに遠慮せずに出してしまっても良いのではないか。そういう芸術監督も選ばれるのではないか。このホールは演劇に特化したホールでないことを考えると、特色は音楽であること、長野市は音楽で行くことを最初から出してしまったほうが良いと考える。 ・ 宣伝ポスターを今から作って、駅の構内や大きな場所で、音楽中心なら音楽中心の形で、市民が今から楽しみにできるようなポスターを貼って、今の時点からプロデューサーを設けて、ポスターに書いて出してほしい。 ・ ギャラリー・展示ホールがあると聞いていたが、ほとんど無いか、大きい美術展・展覧会ができる感覚はないので、最初から諦めていたが、そういうスペースも多少あるから、個展なり、そのレベルのものはできることを、今から、市民の目に触れるものがなさ過ぎる、今は、いったいどうなっているかといった感覚が大きい。 ・ 上田の館が来年 11 月にできると聞いているが、完成イメージの大きなチラシを拝見した。この審議会には、映像や、絵によりものが何も無い中での議論であり、想像するだけでとなっている。審議会委員は普段から考えているが、一般市民にとっては、いったいどんな新会館ができるのか、絵なので示されれば、上田の場合、クラシック音楽をやるような、海外から来るような絵があったが、こういうものが来るのかといった、夢を市民が持てると思う。そういうものを早く市民に提示することで期待感も高まるのではないか。 ・ 実施設計が 3 月末には出来上がる。そうなれば、パース・概観図

事務局	など、より具体的なものが出てくるので、事務局も期待している。また4月中旬には、市長が出席する市制方針説明会があり、そこでも取り上げるが、色々な機会写真等を示すことによって、期待感に繋げたい。概要版8ページに広報宣伝計画があり、広報スケジュールは平成26年度から示したものだが、できる限り、期待感に繋がる取り組みは検討したい。
委員	・ 上田ではビデオを作った。バーチャルのパースで、中を歩いているように見られるものであった。実施計画8ページにはこのような提案は無いが、お金が掛かるものなので、無理の無い範囲で検討してほしい。
事務局	・ 担当部署に、その旨意見があったことを伝える。
委員	・ 東京藝術大学の生徒によるコンサートが、東部文化ホールで開催されたことを新聞で知った。事前の広報が行き届いていないのではないかという気もした。参加人数が定員よりもかなり少なく、東部文化ホールでは多少無理な気もしたが、人数的にも160人は大変少なかったし、演奏後に長野市の芸術文化について何か行われたとあったが、どんな内容がそこで話が出たのか、行かなかった市民にも伝えていただければありがたい。
事務局	・ 広報については、「広報ながの」のお知らせのコーナーへの掲載、チラシ等を、公民館、市内文化ホール、近隣の小中学校にもチラシを配布したて周知を図ったが、人数は結果のとおり。コンサートの後には座談会ということで、出演した学生と、鑑賞した市民の方とで話をしていただいた。今年度の東京藝術大学との連携事業の一環として開催したコンサートと座談会である。1年間の活動内容についてはレポートをいただくことになっているので、その中から、市のホームページ等でお知らせできるものは掲出したい。 ・ 東京藝術大学とは委託の形で研究をお願いしている。昨年8月には親子を対象として、先日は、あらかじめリクエストした演目を演奏していただくものとして、芸大の院生やプロの卵のような方にやってもらった。広報については行き届かなかったのも事実と感じている。コンサート後の懇談会については、芸大とのコンサートの企

事務局	画に携わる「コンサート企画塾」を立ち上げ、呼びかけて集まった、学生、音楽を愛好する方など 10 名程に当日の企画・運営をやっていただいた。この方々と演奏者との懇談会でもあった。懇談会では、大まかには 3 つの話があったが、1 つは、コンサートに対してどんな心構えで望んだのか、また、普段から芸術に対してどんな思いをもっているか、2 つ目は一般参加者から、長野には唱歌童謡の作家など縁のある方が大勢いるが、資源はあるが、今の若い世代には知らない世代が多いので、地元の財産を大事にすべきではないかとの意見に対し、芸大生からの意見が交わされた。3 つ目は、行政が無料のコンサートを開催することに対する意見があった。長野でも活動をされており、入場料を取りながら、発展させたいと思われる方がいる一方で、行政が無料でコンサートを開催することによって、有料コンサートへの理解が得られないことがないよう、慎重に考えてやるべきとの意見であった。
委員	・ 芸大の学生にとって勉強する良い機会であったと思う。地方での発表と座談会までであることは、今後の力になって行くであろうと思う反面、地元にも信大があるので、今後も芸大との連携が計画されているが、そのような機会を信大に限らず地元の学生に与えていただき、地元の若い方たちを育てていただきたい。
事務局	・ 芸大に限らず、信大も含め、色々なところと連携してまいりたい。
委員	・ 大ホールの席数は、実施設計では何席で固まったのか。
事務局	・ 基本計画にある 1,300 席を目標にやっている。
委員	・ 収益性の問題であるが、実施計画本編 26 ページにある小学校 5 年生を対象とした音楽鑑賞会を 1,300 席で開催することについて、入場料を無料とするイメージなのか、収益を求めるコンサートとなれば、収益を気にして、最高責任者の人は企画に食われてしまう。公共で営む鑑賞会もやるべき時はやるべきだが、そればかりではだめ。利用の予約の仕方で、予約する人を先着順で権限を与えてしまうと、一番利用が求められるところが 1 年前から抑えられてしまい、著名な芸術家を呼んでの目玉となる収益が高く取れるイベントが、会場が押さえられているために組めなくなる。予想

委員	される問題はある気がするので、1,300 席をうまく使うためには予約の仕方は非常に重要である。先着順はやらないほうが良い。ある一定の、長野市〇〇フェスティバルなどの期間は取っておいて、松本でやるようなお祭りをやるべき。市民は市民の季節、冒頭にも述べた国際性というか、大きな催しをやるシーズンはそのシーズンとして確保すべき。一年間満遍なく先着順とするのは、特に大ホールを運営する上では危険である。
事務局	・ 予約について、自主事業を企画して、いつ自主事業の実施日として設定するのか把握できるので、年間をとおしていつやるのか予定が立つ。自主事業と貸館のバランスになるが、基本的には、貸館利用の場合の予約は先着順になるが、1 ヶ月単位での利用希望者に集まってもらい、話し合い、または抽選を行い、予約を受け付ける想定をしている。
委員	・ 会館へ行くまでの導線について、駅から、あるいは車で来て、会館に来て、また戻って家に帰るといったことについては、県文(ホクト)にも同じような問題がある。新市民会館がオープンした当初は、色々な条件があってお客さんも来ると思うが、ある程度落ち着いた時点で、本当の評価が出るのではないかと思う。それが 3 年後、5 年後の時期に、お客さんがまた行こうとは思わずに、少し足が遠のくことも必然的である。県文(ホクト)もそうであるが、貸館業務は良いとは思いますが、お客さんが本当にその場所に足を運びたくなることが根底にないと、会館の成功につて、目に見える部分と、大変だと思う部分とが頭の中に交錯している。駅を降りて、市民会館までどのような手段で行くにしても、レストランがあり、帰りにはカフェで語れるような会館であってほしい。 ・ クラシックの比重が大きくなることを考えると、すごくうれしい部分もあるが、逆にすごく怖い部分も見え隠れしている。例えば、何が長野のオリジナリティかを考えると、県文(ホクト)では、クラシックは人が来ないと突きつけられる感じがする。それには理由があると思っている。1 年間過ごしてみて、良いものをやっても来ない場合もあるし、料金がなくて来ない場合もあるし、かといって安いから来るかといったらそうでもない。クラシックはいいものだっただけでは人は来ないと思う。総合的に、会館に足を運んで、心の

ゆとりとか、気持ち良かったという付随的に、トータルで人間の気持ちに残らないと、ホールの繁栄に、非常に厳しいものになると思う。長野に限らず、全国のホールでどこも苦勞されていると思うが、せっかくなのでいいホールを市に作るならば、「我々のホール」と市民が思うようなソフトの部分の大事さは、クラシックの内容もそうではあるが、食べ物に関しても、街の風景に関しても、それらが総合的に信頼を得ないと、建物の意味というか、付随した中身を急ぎ誰がどのように構築するのか、プロデュースするのか、コーディネートするのか、総合的に係わってくるのではないかと思う。県文(ホクト)もすばらしいホールであるが、30年経ってみて、誰もが手を引いている部分と、すごく繁栄している部分の両方あり、これをどうにかしたいと思っているところである。新市民会館に関して、クラシックが多くなる部分はうれしくもあるが、これを成功させる知恵を出し合って、目に見える部分として、5年経てみたら閑散として、貸館業務だけで終わるようでは本末転倒となってしまうので、将来繁栄するためには、街を歩いていて、それが音楽と結びつくハートの部分まで行かないと、建物は立派で最初の3年ぐらいはいいが、5年、10年経て相手になれないことの無いよう、ポリシーをしっかり持ち、オリジナリティをはっきり出して、市民の皆さんとやり合っても進めたほうが良いと思う。新市民会館も県文(ホクト)も、すみ分けをしっかりして、両方繁栄してほしいと願っている。

- ・ クラシックを根付かせることについては、非常に時間が掛かることである。計画の中に、子どもたちに力を注ぎ、育成して行くところが、随分色々なところで見えるが、それをぜひ大切にしてほしい。イギリスでは、現代音楽のコンサートが始まる前に、子どもたちに同じ創り方で体験させている。現代音楽は、必ずしもピアノなどの楽器が弾けなくても、物を叩くなどできる物もある。実施する作曲家などに話を聞くと、将来の自分たちの音楽の聴衆を作るためと答える。すごく無縁なことであるが、そのときに創った面白さ、楽しさが根っこにあれば、取り組むときに接しやすい。美術でも同様と思うが、ワークショップなどで最先端の人の活動に参加した経験が、将来にそういうものを見ることに繋がる、すごく遠い先のものではない。ただ、長期的なことばかり考えるではなく、すぐに来てもらえる、それなりの効果のあるものも必要。

委員

- ・ 芸術監督について、この 20 年ほどを振り替えると、作陽大学の音楽学部長だった岩城宏之さんという指揮者がいたが、彼が果たした役割は大きかった。作陽大学は、岡山県の津山市から倉敷市に移ったが、色々な人を連れてきた。岩城さんはオーケストラアンサンブル金沢の音楽監督でもあった。水戸は作曲家の諸井誠さん、仙台フィルは指揮者の外山雄三さんも同様であった。スターシステムではない、人材がカギだと思う。誰でも良いというわけではない。岩城さんは子どもの話もできる人だったので、将来的な育成にも目配りができるような方が良い。
- ・ 高校生の時、上野の東京文化会館で高校生のための音楽鑑賞会があったが、今思うとすごいコンサートであった。世界的な歌手の大橋国一さんと、外山雄三さんがピアノ伴奏したこともあったが、高校生は無料であった。観客は 50 人もいなかったが、その経験が今日に繋がっている。ただ、東京文化会館は無料のコンサートだけではなく、そこで演奏するにも大変なステータスが必要であり、コンサートもお金を取っている。つまり、色々な顔を持っていることが大事であり、ある意味、無料のコンサートで育てられたとも言える。子どものプログラムも、1,300 人全部集めようと思ってもまず無理なので、アクセントというか、みんな同じでなくて良い。
- ・ 使用料の割引について、利用料の減免について、減免は行わないと別の会議で聞いたが、「原則として」との言葉が入っているのは、減免も有りうると読み取れる。学生のコンサートではお金がないので、県文(ホクト)では減免でやらせていただいている。一律にやらないでほしいが、原則とはどのようなことか。

事務局

- ・ 今の想定は、災害による避難場所であれば、最優先として除外するが、基本的には減免は行わない。経営面の問題として、減免してしまうと財団にお金が入らない、また、その補填を長野市が負うとなれば、市民の税金を補填することになるため、回りまわっていく話になってしまう。料金設定に関して、長野市が料金設定する場合、ランニングコストを基に経費の半分を利用料金として見込む決まりがあるが、それで試算した場合に高い金額が想定されるので、近郊のホール、全国的なホールの状況を見て、バランスを持ちながら、市として意思を持って料金を決定して行くことを考える

事務局

と、減免に変わるものをどの程度考慮するか、これからの話ではあるが、そのようなことで対応が可能と考える。

委員

- ・ 減免について救済があることになったと思うが、県文(ホクト)では減免措置が有る。
- ・ 減免しても、それでも料金が高いので何とかしてほしいとの話もあり、なかなか回転も難しい。経営する側としては非常に厳しいものがあるが、皆さんに喜んでもらえるのが大前提であれば、減免しても良いと考える。実際、使わなくても電気代等は掛かるので、使用してくださる方がいれば、減免して利用していただいても良いのでは。
- ・ 色々な事情もあると思うが、減免について検討してほしい。
- ・ 機構改革により、4月には文化芸術推進課ができ、10月には財団が立ち上がり、計画の中身について、財団と細かい話をつめて行く想定だと思う。事前に想定される範囲では計画に記載されていると思う。時系列で色々なことが発生すると思うが、実施計画の中では、20年のビックバンプロジェクトを各ステージに分けて考えているが、進めていく中で先々に考えていることも前倒しで行われる場面もあると思うので、弾力的な対応が必要だと思っている。
- ・ 市内文化施設と市内文化芸術団体との連携は重要な要素であり、特に文化芸術総合フェスティバルの開催については、計画第2ステージから出てくるが、もう着手できるところから進めてよいと思う。所属団体である長野市文化芸術協議会の取り組みは、来年度49回目の年を経ている。50年の節目の中で、今までの活動の反省をしながら、次のスタートを考えているところである。大きい事業としては長野市文化芸術祭が、長野市、長野市教育委員会と3者共催で、経費的にも市から負担金をいただいている。協議会としては、参加団体でチケットを売りさばいて財源を確保し、協賛企業からの広告費でプログラムを印刷している状況である。このようなことについては、より幅を広げて行くべきと感じており、計画には、全市的な市民参加型の文化芸術総合フェスティバルと謳われている。平成22年2月の市民会館の閉館に伴い、「響きつな

委員

いで」のイベントを開催し、開館から 50 年の今までの市民会館に感謝するとともに、新たな施設への夢作りをしようと、ジャンルを超えて広めていこうと呼びかけ、今年度で 3 年目が終わるが、出演者、観客含めて、延べ 5 万人に足を運んでいただいた。あと 2 年少々で新しい施設ができる予定だが、その中で、楽しみを求める人たちは、夢を描いて、思いを抱いて活動している。オリンピックで言えば、カウントダウンイベントではないが、あと 2 年、1 年半、1 年と、楽しみを近づけるとの意味合いにおいても、「響きつないで」のイベントへの参加を拡大する試みを考えている。今は民間により市民参加型でやっているが、今後は市も何らかの形で係わって、一緒にやって行くのが望ましいと思う。補助金等の話ではなく、主催者として予算付けをしていただき、市も民間も一緒に文化芸術の振興を長野市の中でやるべきではないか。新市民会館だけでは、フェスティバルのすべてを解決できるものではないので、市内の文化施設の調整会議を開いていただき、いろんな会場を使いながら、一年間フェスティバルを繰り広げるようなものを目指せばよいと考えるので、財団が立ち上がるまでの間も、恒常的に、民間と市の担当課との定期協議等を通じて、長野市における長野らしさを求めて行くためのフェスティバルがどういうものが良いか、相談させていただきたい。

- ・ 市民芸術祭の歴史と実績は理解しているが、参加団体が決められているというか、マンネリ化している。「響きつないで」は、小団体であろうとどんどん入ってきているので、底がだんだん広がってきていると感じている。できれば、こういう方を伸ばしてほしい。新団体や、底から拾っていくことも必要ではないか。
- ・ 参考までに、2/20 からのパブリックコメントの件数は何件か。

事務局

- ・ 1 名から 2 件の意見がある。

委員

- ・ 敷地が限られているため、駐車場問題は 100%解決できなかったと思うので、実施計画概要版 6 ページの駐車場管理とあるが、土地の面積もあり何ともし難いものがある。できたら、歩行者導線を充実させて、歩いて新市民会館に来てもらえるような仕組みを、開館と同時にできないとしても、がんばってやるべきである。東側

委員	の歩いてもらって踏み切りを渡るなど、先ずは、街づくり推進課等と絵を描いてみたらどうか。 ・ パブリックコメントの1名2件との話を聞き、びっくりした。市民会館ができる期待感など、市民に対して周知されていないのではないかと感じた。 ・ 友の会の会費について、予算の中に大きく組み込まれているが、友の会は何を想定し、4,000 人の数は、どのような人が参加されると考えているか。
事務局	・ 友の会は、市民会館のファンの方であり、会費をお支払いいただくことになる。4,000 人は長野市の人口の約 1%の数である。会員になれば、公開リハーサルへの参加、会員を対象とした事業へ参加できるなど、特典がある。会員として市民会館事業を応援していただき、知り合いなどに PR していただくなど想定している。
委員	・ 今の状況では、説明の内容で 4,000 人の会員を集めるのは容易ではないと感じる。愛称やロゴ等を募集するなど、早くから市民に伝えて、期待する、ワクワクする思いを共有してもらわなければ難しいと思う。 ・ 上田の施設については、長野の施設よりも大きく、美術の展示スペースも十分ある。上田と長野の距離は近いので、長野より前に完成するので、良いものがあれば、長野から上田へ行ける状況の中で、余程の周知を図って、長野市民の気持ちを新しい市民会館に向けてほしい。 ・ 待ち遠しい市民会館ということで、PR をしていただきたい。 ・ 友の会について、県文(ホクト)にあると思って赴任したが、なかった。理由は、自主事業がない。県文(ホクト)は年間通して色々なことをやろうといった基本姿勢ではない。実際は貸館業務がほとんどであるので、県文(ホクト)に必要なのかとも思う。自主事業を含めて、会館を利用するファンは絶対必要であると思う。4,000 人は大変な数字だが、1,000 人、2,000 人の支えてくれる方

委員

がいて、チケット販売など、運営にも非常に役立ち、選択の幅が広がると思われる。自主事業がしっかりしたものがあれば、友の会の人には、どれに行くかなど選択の余地ができるので、友の会制度は必要であると思う。ダイレクトメールでも、年間に何回か広報するなり、誕生日に挨拶を贈るなど、お客さんとしては心温まるものがある。それが非常に会館を支えるのに大事だと思う。会館が繁栄するためには、サポーターが大事な存在で、サポーターから具体的な要望の意見が出るはずなので、ポイントの一つになると思う。

- ・ みんなが期待するような、今できる、会館を心待ちにするようなことをやって行かないと、なかなか伝わらない。
- ・ 建築の視点から見ると、世界的に著名な大建築家の設計であるので、建築も広報に含めれば、注目する方もあると思う。
- ・ 小・中学生を無料・割引として、子どものときにクラシック・伝統音楽に触れれば、その中の何%かは生涯学習に繋がると思う。

以上